# 持臨技だり



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7 TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095 URL:http://www.sairingi.com/ 携帯URL:http://www.sairingi.com/keitai/index.html Twitter:@sairingi

# タスク・シフト/シェア厚労省指定講習会 (埼玉001)を終えて

#### 埼玉県済生会栗橋病院

猪浦 一人

11月23日、埼玉県で初めてのタスク・シフト/シェア厚労省指定講習会が行われました。この講習会は日臨技のWeb (オンデマンド)で行われている基礎講習会修了者が受講できる実技講習会で、10月の法律改定で認められた10項目の業務について、講習会を修了することで国家資格取得が認められ、業務拡大につながる講習会です。数年前、検体採取について同様の厚労省指定講習会があり、埼玉県でも二千名近い会員が受講しました。検体採取講習会との大きな違いは、座学はWeb (オンデマンド)で700分、実技講習会を一日かけて行うところです。実技講習会は60人の定員で、今回の埼玉001はあっという間に定員に達してしまいました。



9時受付開始、9時30分からのオリエンテーション後実習が行われました。実習は20人3グループに分かれ、第一セッションは自治医科大学附属さいたま医療センター 一般消化器外科 辻仲眞康先生による「直腸・肛門圧検査」「内視鏡検査」、第二セッションは埼玉県済生会栗橋病院 看護師 小川理恵先生による「静脈路確保」「造影剤投与」、第三セッションは埼玉県済生会栗橋病院 看護師 氏原直美先生による「喀痰吸引」「持続式血糖測定装置装着」で、それぞれ2時間、午前中1セッション、午後2セッションをローテーションし、計6時間の実習を行いました。初めて行う行為が多く、

受講者は食い入るようにデモンストレーションを見学し、真剣に実習に取り組んでおりました。 初めての開催でしたが受講者のご協力もあり無事終了できましたこと感謝申し上げます。







# 第66回 埼玉県公衆衛生大会

## 当会推薦4名、公衆衛生事業功労者として埼玉県知事表彰を受賞

埼玉県より当会が推薦した会員が埼玉県公衆衛生事業功労者表彰の決定通知があり、当会から4 名が公衆衛生事業功労者として埼玉県知事表彰を受賞されました。

受賞者の皆様、このたびは誠におめでとうございました!

渋谷 賢一氏(越谷市立病院)

野本 隆之 氏(上尾中央医科グループ上尾中央第二病院)

長澤英一郎 氏(さいたま市立病院)

石井 直美 氏(越谷市立病院)

例年であれば、公衆衛生大会にて授賞式が行われますが、今年度はコロナ禍のため、授賞式は開催されず、受賞者の皆様に賞状が郵送される形となりました。

今回は4名を代表して渋谷様の喜びの一言をご紹介します。

越谷市立病院 渋谷 賢一

この度、第66回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。ご推薦いただきました埼玉県臨床検査技師会神山清志会長をはじめ関係する皆様に厚く感謝申し上げます。

今回の受賞は、臨床検査技師における認知症関連検査の推進活動をご評価いただいたものと思っております。高齢化による認知症患者の増加に伴い臨床検査技師も認知症検査に携わるべく埼玉県で初めに認定認知症領域検査技師の資格を取得しました。その後、全国の認定技師と繋がりを持ち検査技師の認知症検査業務拡大に努めてまいりました。

これからも埼玉県臨床技師会の会員として、会の発展に寄与させていただきたいと感じております。この度は誠にありがとうございました。

# 埼玉県保健医療部医療整備課による立入検査

事務局次長 長澤 英一郎

2021年11月25日(木)埼玉県臨床検査技師会事務所において、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律(平成18年法律第49号)第59条第2項において読み替えて適用する同法第27条第1項の規定に基づく立入検査が実施された。当日は埼玉県医療部医療整備課から2名の職員が来所された。

当会は神山会長、石井会計部長、山下課長、大貫事務員、長澤が対応を行った。私自身、立入検査に立ち会うのは初めてのことであり、「色々聞かれたらどうしよう・・・」と余計な心配と緊張を感じていたが、医療整備課職員の方の口上、神山会長挨拶、自己紹介が終わり、立入検査が淡々と開始された。

当会は公益目的事業が7事業、収益目的事業が2事業にて会務を行っている。これらの各事業についての確認作業では、定款、諸規定、会議議事録、埼臨技会誌の発刊に至るまで具体的にどのように行っているのか説明が求められ、事務局次長の長澤が対応した。

会計状況については、総勘定元帳、会計帳票類、領収書などの確認が行われ、神山会長、石井会計部長、山下課長が対応した。

最後は事務所の中の確認、公印・保管義務のある書類の保管状況について直接現場確認を行った。

立入検査結果の総括では、法令違反等の大きな問題点を指摘されることもなく、今後の会の運営 についての助言と新型コロナウイルス感染症による会務の大幅な変更に対し、労いの言葉をいただ き、立入検査は終了となった。

今回の立入検査を通して間違いのない法人運営を行っていることが確認できた。更に会員の皆さま方、県民の皆さま方にとって有益な法人運営を今後も継続していきたい。



# 研究班研修会報告

### テーマ 臨床検査に従事される方の為の初めてのリアルタイムPCR

主催 微生物検査研究班

実施日時:令和3年10月20日 18時30分~19時30分

会 場:Web開催 点数:基礎教科-20点

講師:近藤 雅紀(ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社)

小棚 雅寛(埼玉医科大学病院)

参加人数:会員68名

出席した研究班班員:渡辺典之 小棚雅寛 永野栄子 今井芙美 千葉明日香 伊波嵩之

酒井利育

研修内容・感想など

今回は近藤氏より「臨床検査に従事される方の為の初めてのリアルタイムPCR」をテーマに 開催した。

まずPCRを理解する上で必要なDNAの性質である相補性と方向性について、またPCRの増幅原理については、プライマーやDNAポリメラーゼなどの必要試薬を含めて解説された。特にPCRを実施する上でポイントの1つであるプライマーについては、塩基のバランスや長さについて細かく解説があり、実際にプライマーを作成する上で参考になった。

リアルタイムPCRでは、Taqmanプローブを例に出され、そのポイントは、従来のPCRとは異なり増幅産物をどのように検出しているかである。この点に関しては、レポーターとクエンチャーの役割について詳細に解説された。またリアルタイムPCRの解析方法の1つである絶対定量に関しても検量線の作成概要からわかりやすく説明があった。

さらにマルチプレックスPCRでは、用いられる反応用色素の選択や内部コントロールが重要 とのことであった。

最後、遺伝子関連検査項目について触れ、PCRの測定項目は、病原体検出からがんゲノム医療など非常に多岐にわたることが再認識することができた。昨年からのコロナウイルスパンデミックに伴い注目を集めたのがPCRであり、PCR検査に従事することになった臨床検査技師も多数いたと推察される。今回は、PCRの増幅原理から現在使用されているさまざまなPCRの特性について詳細に解説された。PCR検査の可能性は、これからも非常に大きいと思う。今回のPCR基礎研修会の内容を今後の業務に活かしてほしい。

(文責:小棚雅寛)

## テーマ **リンパ腫と関連検査について**

主催 血液検査研究班

実施日時:令和3年10月28日 19時00分~20時30分

会 場:Web開催 点数:専門教科-20点

講 演 1:活用しよう! フローサイトメトリー解析

講 師:網野 育雄(埼玉医科大学国際医療センター)

講演 2:血液がんと可溶性IL-2レセプターについて

講 師:福田 雅之助(H.U.フロンティア株式会社 テクニカルサポート課)

参加人数:会員106名 賛助会員3名

出席した研究班班員:中山智史 原誠則 網野育雄 神成千晴 澁川絵美 星聖子 堀口大介

加藤鉄平

研修内容・感想など

リンパ腫と関連検査について、フローサイトメトリー解析を網野氏、可溶性IL2-Rを福田氏、それぞれの講演がWeb環境下にて行われた。

講演1では、フローサイトメトリー (FCM) はリンパ腫の診断、病型分類に用いられ、その原理や実際の症例を提示しながら解説された。FSC (前方散乱光) とSSC (側方散乱光) により得られるサイトグラムにて、リンパ球、単球、顆粒球はそれぞれの領域に分けられ、まずは目的とする領域をゲーティングする必要がある。この時、鏡検時の細胞形態の情報等からゲーティングの位置を決定していくと良いが、実際には外注検査に委託している施設も多く、必要に応じてゲーティングの位置の変更を依頼すると良いとのことであった。質疑応答も盛んに行われ、骨髄は凝固しないように採取することが重要である点や、陽性と判定するのは20%以上とする点、想定した結果と違いが生じたら、ゲーティングの位置の確認や使用する蛍光色素を変えてみる等、実際の業務に役立つ情報が紹介された。

講演 2 では、3 大血液がんのひとつとも言われる悪性リンパ腫の基礎知識から始まり、分類や進行速度の違い、臨床経過、治療に至るまで悪性リンパ腫について学んだ。その中でも、可溶性IL-2R (sIL-2R) は、非ホジキンリンパ腫および成人T細胞白血病/リンパ腫において高値となり、診断の補助や治療効果判定、再発の早期発見の指標として活用されている。特に成人T細胞白血病/リンパ腫ではsIL-2Rが高度上昇することが知られており、この疾患についても解説された。

近年では悪性リンパ腫の罹患率は増加傾向にあり、日頃の業務においても遭遇する機会は少なくない。悪性リンパ腫が疑われた際には、FCMやsIL-2Rの結果に着目する等、この研修で得た情報を役立てていきたい。 (文責: 満川絵美)

# テーマ 秩父セミナー in Web

主催 臨床化学検査研究班

実施日時:令和3年10月30日 14時00分~18時00分

会 場:Web開催 点数:専門教科-20点 講 師:佐藤 摘歩実(株式会社日立ハイテク)

後藤 正人(キヤノンメディカルシステムズ株式会社)

柳田 小百合 (ベックマン・コールター株式会社)

高橋 大樹(日本電子株式会社)

石川 純也 (株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所)

新井 堅仁 (関東化学株式会社)

中山 智史(防衛医科大学校病院)

小関 紀之 (獨協医科大学埼玉医療センター)

参加人数:会員69名 賛助会員27名

出席した研究班班員:永井謙一 北川裕太朗 小林麻里子 石川純也 羽田幸加 大谷真澄

巖崎達矢 廣瀬良磨

研修内容・感想など

毎年秋頃2日間にわたり開催している秩父臨床化学セミナーを、昨今の情勢を鑑み、Webで

開催した。今回は、「各装置メーカーの特徴」「日常業務で役立つExcel操作」「試薬組成と工夫について」「臨床化学担当者も知っておきたい~血液検査、尿髄液検査~」についての講演を半日で企画した。

「各装置メーカーの特徴」では、汎用自動分析装置の主要メーカー4社に講師をお願いし、自社の特徴について講演された。各社で撹拌の方法を変えたり、HbA1cや凝固などが測定出来たり、ソフトを使い試薬の管理が出来たりと多様であった。

「日常業務で役立つExcel操作」では、Microsoft Excelの基本的な使い方や、数式・関数の使い方、オススメの関数など解説があった。

関数を覚える必要はなく、何をしたいかを明確にし、インターネットなどで検索すればいいというのが印象的であった。使用頻度の高いIF関数については具体例を示し、理論式を一つ一つ分解して説明されたので大変分かりやすく感じた。

「試薬組成と工夫について」では、なぜこの緩衝液で、基質濃度なのか等、測定原理から説明された。また、反応には直接的には関係ないが、妨害物質の影響を回避するために添加されているものや、試薬の安定性に関与するものなど試薬開発の工夫を知ることができた。

「臨床化学担当者も知っておきたい~血液検査、尿髄液検査~」では、血液検査・一般検査の基礎的なことから、よく遭遇する貧血の診かた、鑑別するための他の検査など、両講演とも症例を交え詳しく解説があった。

Web開催であったが各講演に質問もあり、関心の高さがうかがえた。

本セミナーで得られた情報・知識を日常業務に役立てていただければと思う。

(文責:永井謙一)

## テーマ 自宅で鏡検実習③!

### ~ あなたのパソコンが顕微鏡に!? (結晶・その他編)~

主催 一般検査研究班

実施日時:令和3年11月5日 19時00分~20時00分

会 場:Web開催 点数:専門教科-20点

講 師:中川 禎己(小川赤十字病院)

参加人数:会員114名

出席した研究班班員:藤村和夫 小関紀之 柿沼智史 佐々木菜緒 渡邉裕樹 小針奈穂美

室谷明子 中川禎己

研修内容・感想など

自宅で鏡検実習シリーズの第3弾として、~あなたのパソコンが顕微鏡に!?(結晶・その他編)~を研究班員の中川氏を講師にWebにて開催した。

無晶性塩類(尿酸塩、リン酸塩)の除去方法として、0.4%EDTA加生理食塩水を用いる方法が紹介された。まず尿検体を遠心し、上清を除去して沈査を作成する。この沈査に0.4%EDTA加生理食塩水を加えて再度遠心し、沈査を作成して鏡検する。塩類を溶解して除去することで細菌などの細かい成分も鏡検がしやすくなる。ただし、検体によっては赤血球などの成分も壊れて減少する場合もあるので注意が必要である。

EDTA-3Kがない施設でも、抗凝固剤として採血管に入っているものを使用し作成が可能とのことであった。

続いて、各結晶成分、細菌、真菌、トリコモナスなどの鑑別ポイントから臨床的意義までを 実際の鏡検像が動画で配信され、とても分かりやすい解説であった。また、各結晶成分は、形態的特徴、色調、尿pH、30%塩酸や水酸化カリウムでの溶解の有無などを参考に鑑別するとの 解説であった。

今回、中川氏が講演で使用した写真や動画は顕微鏡用カメラではなく、スマートホンで撮影されたものであった。顕微鏡に専用カメラが設置されていない施設にとっては、尿沈渣の写真や動画の撮影ができる方法として、スマートホンとアダプターを使用しての撮影方法の解説はとても参考になった。

各種成分の鑑別ポイント、臨床的意義を再確認し、日常業務に大いに役立つ講演であった。 今回は、このコロナ禍で鏡検実習の現地開催ができないため、Web研修での鏡検実習を再現 した研修会を企画したものであり、新たな可能性を感じることができた。

(文責:小関紀之)

## テーマ 知っていますか? 縁の下の力持ち。 理解を深めて、より良い輸血療法を! 製造所の役割と依頼検査

主催 輸血検査研究班

実施日時:令和3年11月18日 19時00分~20時00分

会 場:Web開催 点数:専門教科-20点

講 師:神戸 考裕(日本赤十字社血液センター 埼玉製造所)

参加人数:会員71名

出席した研究班班員:小原佑太 宮澤翔子 渡邊一儀 岸健太 比嘉絢子 久保居由紀子 研修内容・感想など

今回の研修会は、大まかに3つの内容について講演が行われた。

①『ブロック血液センターとは』では、役割として業務と経営が挙げられ、献血血液が製造所に届くまでの流れや検査について、更に医療機関に納品されるまでの様子を写真等を交えてわかりやすく説明があった。

普段なかなか目にすることがない光景であったため、とても興味深かったのと、献血者の確保や品質管理等に日々努めてくださるスタッフの方々を目のあたりにし、製剤を使用している側として廃棄血を削減する努力をしなくてはいけないことを再認識させられた。

②『依頼検査について』では、実際に受けた依頼検査の内容や検査受託の基準について解説があった。日々の検査業務の中で、自施設では解決できない症例に遭遇することがある。血液センターにも限りがあるため、輸血を前提とした症例の検査依頼が可能とのことであった。また、解決方法について相談に応じているとのことで、大変心強く感じられた。

ただ、時間的なこともあるため、検査結果が確定できない場合に使用する製剤のルール決めが各施設で必要と考える。

③『医療機関からの症例』では、実際の3症例について検査結果、追加試験、結果の解釈について話された。

日々の業務の中で血液センターと各医療機関との間で、暫し温度差を感じることがあるが、 今回の講演を通して改めて血液センターの状況を理解することができた。今後も連携を取りな がら、患者様に安心して輸血医療を受けていただく様に製剤管理および検査の向上に努めてい きたい。 (文責: 久保居由紀子)

# テーマ 食物と水由来による寄生虫症と検査法

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時:令和3年11月19日 18時30分~19時30分

会 場:Web開催 点数:専門教科-20点

講 師:山本 徳栄(国立感染症研究所 寄生動物部 客員研究員)

参加人数:会員63名

出席した研究班班員:鈴木勤 立塚梓 菊池孝司 吉田翔平、鈴木由美子 富井貴之

研修内容・感想など

今回山本氏より寄生虫症についての講演であった。毎回、山本氏の講演は、寄生虫の虫体や虫卵を始めとした多くの画像を盛り込んであるため、大変参考となる内容である。今回も染色や鏡検の検査のポイントを図示しながら説明され、寄生虫検査の経験があまりない人にも大変わかりやすい内容であった。講演の中でも紹介されていたが、種々の雑誌に掲載されている山本氏の寄生虫検査に関する論文は、寄生虫検査に携わる技師の教科書として、新たに寄生虫検査に従事する技師はもちろん、多くの技師の方々の参考になると思われる。

山本氏の寄生虫検査の経験は国内屈指と言っても過言ではなく、その知識と手技を後進に伝えていくため、今後も定期的に研修会を企画していきたい。

(文責:菊地孝司)

令和3年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 第8回 理事会議事録

時:令和3年11月11日(木) 19時00分より

**所**: 埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家 7-14-7

題: I. 行動報告

Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項

IV. 議題

出 席:現地にて出席

> (理事)神山 矢作 松岡 猪浦 濱本 長澤 神嶋 菊池 松尾 伊藤 笹野 塚原 松嵜 石井 神戸 阿部 長岡 長谷川

(監事)遠藤

Zoomにて出席

(理事)山口 久保田

(監事)細谷

欠 席:(理事)小山 飯野

本日の理事会の出席者は22名であった。理事 の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達し ており、定款第33条第1項の決議を行うに必要 な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会 長が務めることとなった。

I. **行動報告**(令和3年10月14日~令和3年11月10日) 10月14日(木)令和3年度第7回理事会:

> 神山、矢作、松岡、猪浦、濱本、 山口、神嶋、菊池、松尾、伊藤、 笹野、塚原、松嵜、石井、神戸、 阿部、長岡、久保田、長谷川、飯 野、遠藤

10月15日(金)第49回埼玉県医学検査学会実行委 員会:神嶋

10月18日(月)第7回事業部メール会議: 矢作、伊藤、笹野、塚原、松嵜

10月18日(月)青年部委員会:濱本

10月19日(火)女性技師企画研修委員会: 山口、菊池、神嶋

10月21日(木)青年部研修会:

神山、山口、神嶋、神戸、濱本

10月21日(木)第2回青年部委員会:

山口、神嶋、神戸、濱本

10月23日(土)タスク・シフト/シェアに関する 厚生労働大臣指定講習会(日臨技 関甲信支部主催)準備:

神山、猪浦、濱本、長岡、阿部

10月24日(日)タスク・シフト/シェアに関する 厚生労働大臣指定講習会(日臨技 関甲信支部主催):

神山、松岡、矢作、猪浦、小山、 濱本、長澤、長岡、阿部、伊藤、 笹野、松嵜

10月24日(日)日臨技臨地実習指導者講習会: 塚原

10月26日(火)第50回埼玉県医学検査学会第1回 実行委員会:神山、神嶋、飯野

10月27日(水)日臨技人事委員会:神山

10月29日(木)第2回研究班運営委員会:

矢作、松岡、山口、長岡、阿部、 久保田、長谷川、飯野

10月30日(金)秩父臨床化学セミナー:神山 10月31日(十)日臨技臨地実習指導者講習会: 菊池

11月1日(月)日臨技宮島会長と面談:神山

#### Ⅱ. 報告事項

#### 1 事務局

- 1)公益インフォメーションにて昨年度の事業 報告が受理された。
- 2) 令和4・5年度日臨技会長候補者として宮 島喜文会長に立候補要請を行った。
- 3)10月23日(土)タスク・シフト/シェアに関 する厚生労働大臣指定講習会(日臨技関甲 信支部主催)の準備に理事5名を派遣した。 (別紙資料1)
- 4)10月24日(日)タスク・シフト/シェアに関 する厚生労働大臣指定講習会(日臨技関甲 信支部主催)が行われ埼臨技から12名の理 事が受講した。 (別紙資料2)
- 5)10月24日(日)及び31日(日)開催の日臨技臨 地実習指導者講習会に2名の理事を派遣し た。 (別紙資料3)
- 6)11月23日(火)12月12日(日)にタスク・シフ ト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習 会を東武医学技術専門学校で開催する。
- 7)11月25日(木)公益社団法人及び公益財団法 人の認定等に関する法律に基づく、埼玉県 の立ち入り検査が実施される。

#### 2 総務部

- 1)11月15日(月)埼臨技だより第510号発行予定
- 2)10月18日(月)青年部委員会研修会事前打ち 合わせを行った (別紙資料4)
- 3)10月21日(木)青年部研修会を開催した。 (別紙資料5)

4)10月21日(木)第2回青年部委員会を開催し た。 (別紙資料6)

#### 3 事業部

1)10月18日(月)第7回事業部会議を開催した。 (別紙資料7)

#### 4 学術部

1)10月26日(火)生涯教育プログラム12月・1

月分の行事登録(日臨技システム)が完了した。

- 2)令和3年度第2回研究班運営委員会を10月 29日(金)に開催した。 (別紙資料8)
- 5 精度保証部 特になし
- 6 会計部
  - 1) 令和3年度正会員費10名50,000円、入会金9名9,000円、再入会金1名1,000円、合計60,000円の入金があった。
  - 2) 石井印刷に埼臨技だより第509号印刷代 160,776円、仕分費35,090円、合計195,866 円を支払った。
  - 3) **Zoom**ライセンス更新料として253,440円を 支払った。
  - 4)極東製薬工業株式会社から疑似便の特許権 等の譲渡対価として309,706円の入金が あった。
- 7 精度管理委員会 特になし
- 8 一都八県会長会議 特になし
- 9 日臨技関甲信支部 特になし
- 10 日臨技 特になし
- 11 第49回埼玉県医学検査学会
  - 1)10月15日(金)、第49回埼玉県医学検査学会 実行委員会を開催した。 (別紙資料9)
- 12 第50回埼玉県医学検査学会
  - 1)10月26日(火)、第50回埼玉県医学検査学会 実行委員会を開催した。 (別紙資料10)

#### Ⅲ. 承認事項

- 1 事務局
  - 1)会員動向(令和3年度分)

令和3年11月1日現在 会員数3,356名[令和2年度会員数3,214名] (新入会員261名)

賛助会員 76社[令和2年度 78社] 承認された。

2)役員派遣について

11月23日(火)、12月12日(日)に埼玉県で

行われる厚労省指定講習会で、日臨技実務 委員とは別に埼臨技から実務委員5名の派 遣を承認いただきたい。 (別紙資料11)

上記の件について、猪浦一人副会長より 発言があり、審議の結果、今年度の事業に 限り条件付きで承認とした。

- 2 総務部 特になし
- 3 事業部
  - 1) 令和3年度、全国「検査と健康展」追加募集申請について

上記の件について、伊藤恵子事業部長より発言があり、審議の結果、今年度は実施 しないことで承認された。

- 4 学術部 特になし
- 5 精度保証部 特になし
- 6 会計部 特になし
- 7 精度管理委員会 特になし
- 8 第49回埼玉県医学検査学会 特になし
- 9 第50回埼玉県医学検査学会 特になし
- Ⅳ. 議題
- 1 事務局 特になし
- 2 総務部 特になし
- 3 事業部 特になし
- 4 学術部 特になし
- 5 精度保証部 特になし
- 6 会計部
  - 1) 埼玉県医学検査学会運営規則細則の変更について (別紙資料12)

上記の件について、石井直美会計部長より発言があり、審議の結果、学会運営規則 細則6条の2を削除することで、可決された。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を 謝して閉会とした。

# あとがき

やっと新型コロナ流行の第 5 波も収まってきたようなこの頃です。第 6 波は来るのでしょうか? 用心することは大切ですが、以前同じコロナウイルスで流行したSARS、MERSのように収束し、第 6 波が来ないことを切に期待します。 2021年は新型コロナに始まり、新型コロナが終わった 1 年でありますように!

2022年が皆様にとって、素晴らしい年になりますことご祈念いたします。良いお年を!

(猪浦 記)

